

校長研修会について

「社会に開かれた教育課程の具現化を目指して」

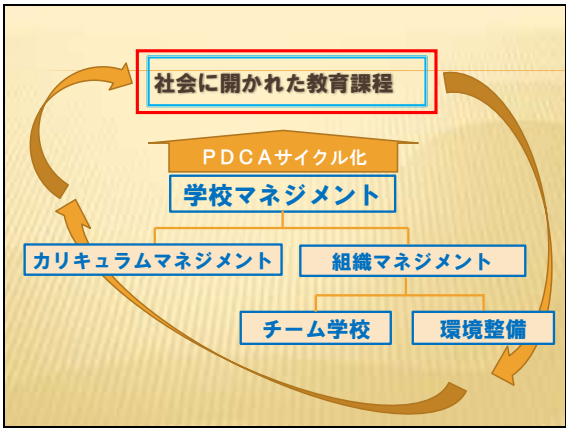
平成29年8月10日
第15回教育委員会定例会
教育部指導課

社会に開かれた教育課程の具現化を目指して

〈校長研修会 報告（6月26日）〉
カリキュラムマネジメント
と組織マネジメントの展開

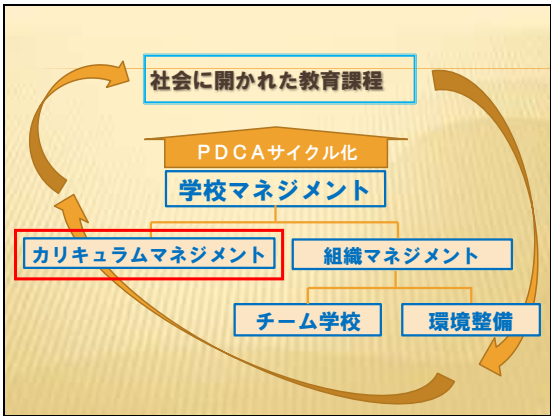
平成29年7月27日
立川市教育委員会

社会に開かれた教育課程の具現化を目指して
LECTURE

社会に開かれた教育課程

- ① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介して、その目標を社会と共有していくこと。
- ② これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確にし、育んでいくこと。
- ③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。



カリキュラムマネジメント

- ① 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点でその目標の達成に必要な教育内容を組織的に配列していく。
- ② 教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程の編成・実施・評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。
- ③ 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も活用しながら効果的に組み合わせること。

教科横断的なカリキュラム編成の方法

- I 教科横断的なカリキュラムにおいて、「育てたい資質・能力」を明らかにする。
- i 教育目標の実現、児童・生徒の実態、学校の実態、地域性等を踏まえて、各教科等で共通して「育てたい資質・能力」を設定する。
- 例：「論理的思考力」、「批判的思考」、「主体的に学びに向かおうとする態度」等

社会に開かれた教育課程 カリキュラムマネジメント・組織マネジメント



演習

- 1 中学校区ごとに、教科横断的なカリキュラムにおいて「育てたい資質・能力」を明らかにする！
- 2 「1」で設定した育てたい資質・能力をどのようにして、具現化していくか。（カリキュラム・マネジメント）

◇話し合い

～中学校区ごとに、教科横断的に育てたい資質・能力は？～



◇話し合い

～中学校区ごとに、教科横断的に育てたい資質・能力は？～



◇発表

中学校区ごとに、教科横断的に育てたい資質・能力は？
どのようにして具現化するか（カリキュラムマネジメント）



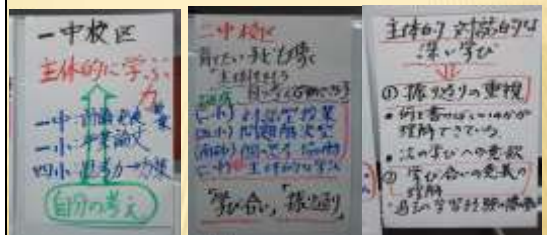
◇発表

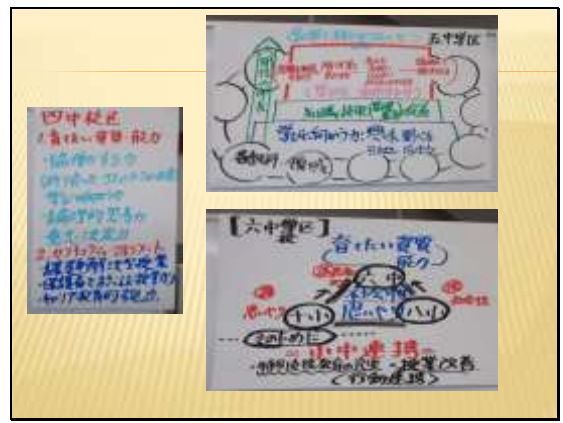
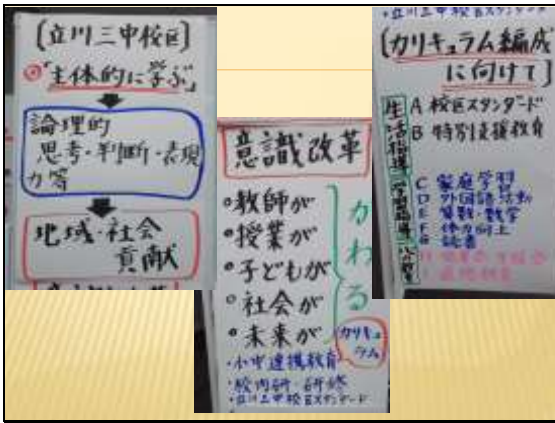
中学校区ごとに、教科横断的に育てたい資質・能力は？
どのようにして具現化するか（カリキュラムマネジメント）



◇成果

中学校区ごとに、教科横断的に育てたい資質・能力は？
どのようにして具現化するか（カリキュラムマネジメント）





◇成果

- ① 中学校区ごとに、教科横断的に育てたい資質・能力？
- ② どのようにして具体化するか（カリキュラムマネジメント）

教科横断的なカリキュラム編成の方法

I 教科横断的なカリキュラムにおいて、「育てたい資質・能力」を明らかにする。

- i 教育目標の実現、児童・生徒の実態、学校の実態、地域性等を踏まえて、各教科等で共通して「育てたい資質・能力」を設定する。
例：「論理的思考力」

II どの学年で（縦系列）どの教科等（横系列）で、どのような単元で育成していくか洗い出す。
縦系列 例：「論理的思考力」

小1・2・3 | 4・5・6 | 中1・2・3

「論理的思考力」をそれぞれの発達段階に応じて具体化する

横断的なカリキュラムの編成 例）論理的思考力の育成

横系列 ○年 年間指導計画

月	国語	社会	数学	理科	音楽	...	道徳	総合	特活
4月		指導内容		指導内容					
5月		指導内容							
6月			指導内容						
7月				指導内容					
8月									
9月									
10月									
11月									
12月									
1月									
2月									
3月									

①各単元の意義をじっくり考える。
②相互に関連付けられそうな単元を探し、線で結んだり、色分けをしたりする。
③表を作成するなど整理する。

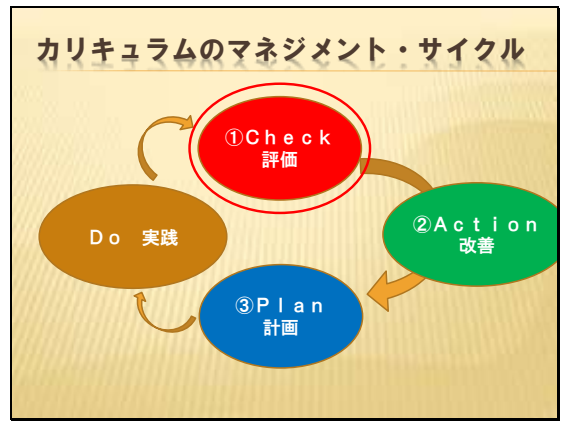
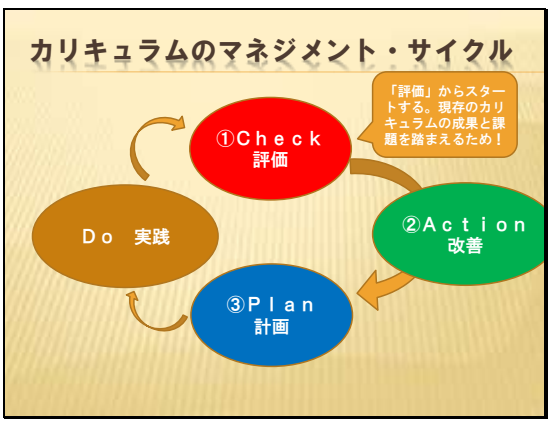
教科横断的なカリキュラム編成の方法

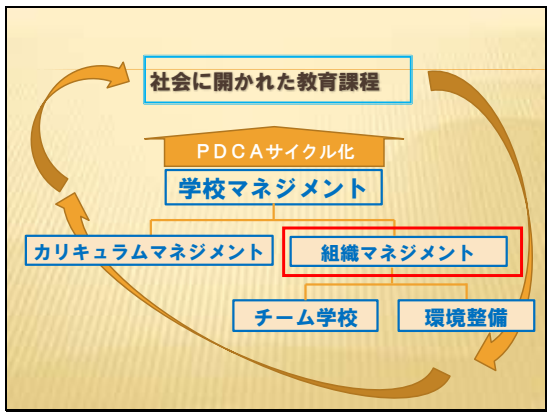
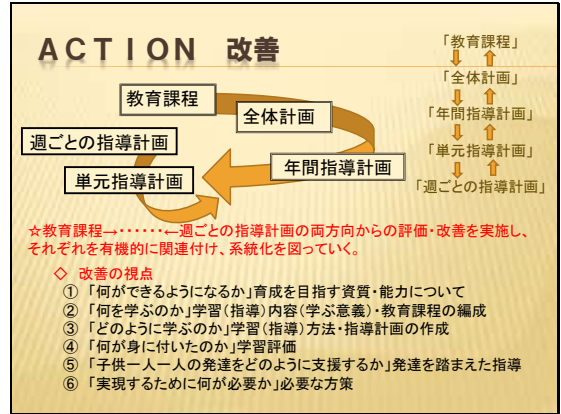
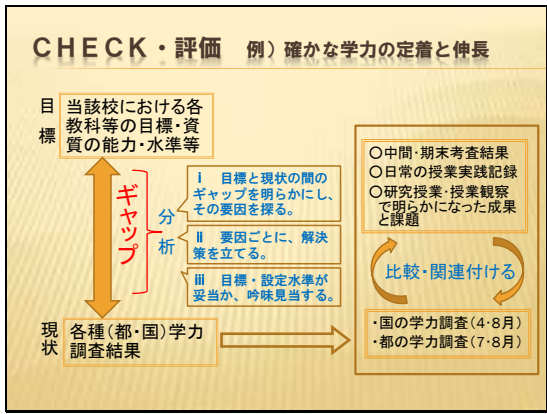
I 教科横断的なカリキュラムにおいて、「育てたい資質・能力」を明らかにする。

II 各学年ごとに、どの教科等で、学年ごとに、どのような単元で育成していくか、【洗い出し】⇒系統性・関連性を組織的に吟味検討し、決定する。

- ・学習内容・教材
- ・学習方法：言語活動、問題解決的な学習
- ・評価方法

III 実践を通して、評価・改善していく。





- ### 組織マネジメント I CHECK⇒ACTION
- ① 校長の経営方針・経営計画(ビジョン・グランドデザイン)を教職員全体で再確認・共有する。
 - ② その実現を図るための具体的な手立てを評価する。
◇手立てごとのワークショップ(経営参画意識の喚起)
①評価 ⇒ ②改善策(経営方針の理解の深化)
 - ③ ワークショップを踏まえ、「②」改善策を検討・吟味し、決定する。
 - ④ 「②」改善策を実践する学年及び校務分掌等を決定する。

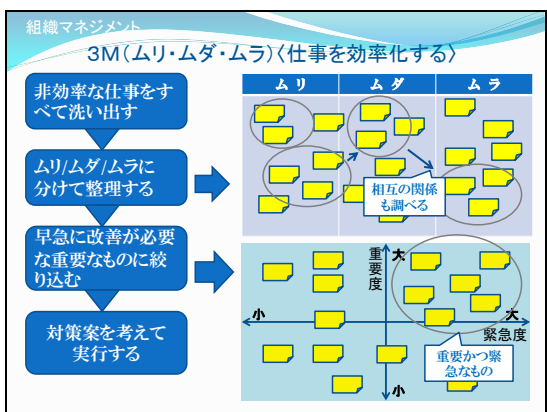
組織マネジメント II

ワークショップ

Q 教職員の経営参画意識を喚起し、教職員一人一人が力を発揮できる環境整備をどう図っていくか。

○ 校務分掌の見直し、業務改善の推進、OJT等の人材育成システムの構築等

- ### 組織マネジメント
- #### 3M(ムリ・ムダ・ムラ)〈仕事を効率化する〉
- ムリ**
 - ・目的・目標が高すぎ、過度な負荷がかかっている状況
 - ・どこか別のとこにしわ寄せがいたり、いずれ限界を超えて破綻する恐れがある
 - ムダ**
 - ・必要とされるものに対して供給が上回り、余っている状況
 - ・必要以上に行っている業務
 - ムラ**
 - ・バラツキがある状態
 - ・ムダとムリが交互に現れている状態



- ### 組織マネジメント II
- I 教職員一人一人が力を発揮できる環境整備
 - 校務分掌の見直し、業務改善の推進、OJT等の人材育成システムの構築
 - II 伝統的な教員集団を中心とする学校構成員を核にして、学校内外の新たな専門スタッフ、地域住民、保護者から構成されるチーム学校・オール立川の創造 チーム学校担当者等を配置する！
 - 課題に応じて構成メンバーを変えるなど柔軟に対応する。
 - ※ それぞれの専門スタッフ・保護者・地域住民の願い(子供の学びの保障と成長)は同じでも、それを実現する方法、優先順位、当然とされる事柄の差異・段差は思っている以上に大きい。それだけに、学校のリーダーシップが問われる。